三重大学振興基金へのご協力を

三重大学の目的・使命を達成する一助となることを目的に「国立大学法人三重大学振興基金」を設立しました。

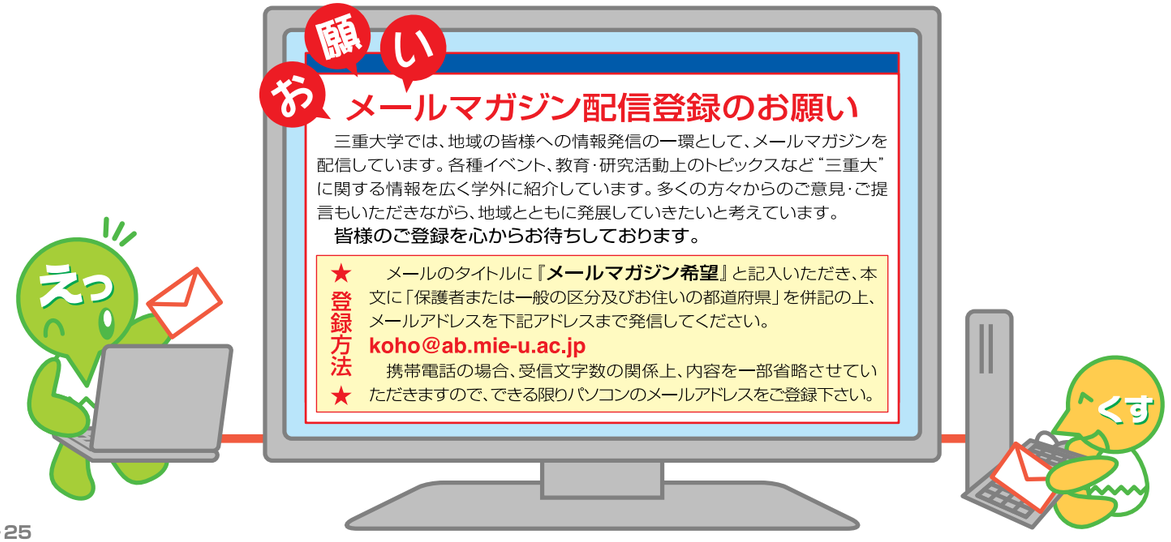
地域企業人対象の新たな大学院の整備、地域企業とのインターンシップ・ネットワーク構築、地域医療に貢献する仕組みの確立、自治体・大学連携による国際防災ボランティア事業の推進など、多くの事業を計画しておりますので、皆様の暖かいご支援・ご協力をよろしくお願いします。

● 募金の方法 ●

寄附申込書を本学ホームページよりダウンロード等していただき、ご記入の上ご郵送（FAX・メール可）ください。

三重大学振興基金事務局
【総務部総務チーム内】
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577番地

TEL: 059-231-9005　FAX: 059-231-9000
E-mail: kikin@ab.mie-u.ac.jp
URL: http://www.mie-u.ac.jp/fund/index.html



お願い メールマガジン配信登録のお願い

三重大学では、地域の皆様への情報発信の一環として、メールマガジンを配信しています。各種イベント、教育・研究活動上のトピックスなど"三重大"に関する情報を広く学外に紹介しています。多くの方々からのご意見・ご提言もいただきながら、地域とともに発展していきたいと考えています。

皆様のご登録を心からお待ちしております。

★ 登録方法 ★

メールのタイトルに『**メールマガジン希望**』と記入いただき、本文に「保護者または一般の区分及びお住いの都道府県」を併記の上、メールアドレスを下記アドレスまで発信してください。

koho@ab.mie-u.ac.jp

携帯電話の場合、受信文字数の関係上、内容を一部省略させていただきますので、できる限りパソコンのメールアドレスをご登録下さい。

歴史街道シリーズ

曾我蕭白（そがしょうはく）

旧参宮街道界隈▼▶

▶旧永島家襖絵「竹林七賢図」

旧参宮街道を斎宮（多気郡明和町）まで来ると、あたりには長く古い家並みが続きます。なかでも永島家は、旧家の趣きを今に伝えています。

江戸時代、宝暦年間（一七五一～六四）頃のこと、同家の当主が外出の帰り、泥酔して道端で倒れている若い男をみつけて連れ帰りました。若い男の名を曾我蕭白（一七三〇～八一）といいます。今日では、円山応挙らと並んで江戸時代中期を代表する画人と認められていますが、穏やかな人柄の応挙とは対極の、奇行の人でした。しばしの逗留の返礼として描いたのが「竹林七賢図」で、これは新築なった邸宅を飾るために描いた四四面にのぼる襖絵の一部です。

竹林七賢図とは、中国、魏末から西晋にかけての頃（三～四世紀）、世塵を避けて竹林に会し清談を事としたといわれる七人の隠士を描く伝統的画題です。清談に浸り世俗を疎んじる高潔の人として描かれるのが一般的ですが、蕭白の手に掛かると、酒に酔い痴れる野卑な親父に化かされてしまいます。ここには、雅を俗に転じて滑稽感をかもし出すことで正統を笑う、異端の精神が溢れ出ています。

三重大学教育学部 美術教育講座芸術学研究室・教授
山口 泰弘

三重県立美術館

利用のご案内

■開館時間／午前9時30分～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

■休 館 日／月曜日（ただし、祝日休日は開館）
祝日休日の翌日、年末年始

■観 覧 料／【常設展示の場合】
〈美術館のコレクション+柳原義達の芸術〉
一般=300円（240円）
高大学生=200円（160円）
65歳以上の方、小中学生=無料
（ ）内は20人以上の団体割引料金
※企画展示は、別途

■お問い合わせ／Tel.059-227-2100

展 覧 会　曾我蕭白 襖絵《竹林七賢図》《松鷹図》も修復後初公開
『〈日本画〉の魅力にせまる―宇田荻邨〈山村〉、80年ぶりの公開へ―』
2006年11月14日［火］―2007年1月8日［月］

本誌お問い合わせ先

三重大学総務部広報チーム
〒514-8507　津市栗真町屋町1577
TEL 059-231-9789
FAX 059-231-9000
ホームページ　http://www.mie-u.ac.jp/
E-mail　koho@ab.mie-u.ac.jp
*ご意見をお寄せください。

三重大 X［えっくす］vol.8
平成18年12月1日発行
●発行／三重大学広報委員会
●編集／三重大学広報室
●印刷／有限会社アートピア　artopia@ztv.ne.jp

◎禁無断転載
本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。